

知っておきたい感染症 ～園での病気の流行を防ぐために～

令和6年度

1. 出席停止の期間の基準が定められている感染症

登園届が必要です

病名	潜伏期間	主な症状など	出席停止期間	予防接種
麻疹 (はしか)	8～12日	発熱、咳、鼻水、目の充血、発しん(顔→胸→おなか→手足→全身)。口内粘膜に白いブツブツの斑点。	熱が下がった後3日を経過するまで。	有り 〔定期〕 (MR7クチン)
インフルエンザ	1～4日	高熱、寒気、頭痛、体の節々の痛み。	発症日を0日目とし、後5日を経過し、かつ、解熱後3日間を経過すること。	有り 〔任意〕
新型コロナウイルス感染症	1～14 (短縮傾向)	発熱、呼吸器症状、頭痛、倦怠感、消化器症状、鼻汁、味覚異常、嗅覚異常などの症状がみられる。無症状の感染者は検体採取日を0日目とする。	発症日を0日目とし、後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過すること。	有り 〔任意〕
風しん	16～18日	軽い発熱と同時に全身に紅い細かい発しん。首や後頭部のリンパ腺が腫れる。	発しんが消失するまで。	有り 〔定期〕 (MR7クチン)
水痘 (水ぼうそう)	14～16日	発熱、水疱は全身にでき、紅斑→丘しん→水疱→かさぶたと変化。かゆみが強い。	すべての発しんが、かさぶたになるまで。	有り 〔定期〕
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	16～18日	耳下腺(耳の下から頬にかけて)の腫れや痛み、発熱。	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫れが出た後5日経過し、かつ全身状態が良好になっていること。	有り 〔任意〕
結核	発病時期は様々	始めは風邪症状。発熱や微熱、食欲不振、全身倦怠感、顔色不良。	医師により、感染のおそれがないと認められるまで。	有り 〔定期〕 (BCG)
咽頭結膜熱	2～14日	のどと目が真赤になり、目やにや涙がでる。発熱(39℃位)が数日続き、のどが痛い。	主な症状が消失した後2日を経過するまで。	無し
流行性角結膜炎	2～14日	目やにが多量。涙が出やすい、まぶたが腫れる。	結膜炎の症状が消失し、医師により感染のおそれがないと認められるまで。	無し
急性出血性結膜炎	1～3日	結膜・白目の部分の痛みがあり、充血する。まぶたが腫れる。		
百日咳	7～10日	「コンコン、ヒュー」と特有の咳が長時間持続。乳児は呼吸困難になる。	特有の咳が消えるまで。または5日間適正な抗菌薬による治療が終了するまで。	有り 〔定期〕 四種混合ワクチン
腸管出血性大腸菌感染症 (O-157等、ベロ毒素産生性大腸菌)	1～8日	下痢(水様便)、腹痛、血便等が特徴である。激しい腹痛、頻繁にみられる水様便及び著しい血便。飲食物からの経口感染。年間を通じて発症するが、特に夏に多い。	症状が治まり、かつ抗菌薬による治療が終了し、その後の検便によって菌陰性が確認されるまで。	無し
侵襲性髄膜炎菌感染症	4日以内	主な症状は、発熱、頭痛、嘔吐であり、急速に重症化する場合がある。	医師において感染のおそれがないと認められていること。	有り 〔任意〕

知っておきたい感染症 ～園での病気の流行を防ぐために～

2. 医師と相談のうえ、感染のおそれがなくなってから登園してください

病名	潜伏期間	主な症状など	登園のめやす	合併症、予防など
溶連菌感染症	2～5日	扁桃炎、伝染性膿痂疹（とびひ）、中耳炎、肺炎など様々な症状がでる。	抗菌剤の内服後 1～2 日間経過し、全身状態が安定すること。	リウマチ熱、腎炎等を合併することがある。手洗い、うがいの徹底。
マイコプラズマ肺炎	2～3週	咳、発熱、頭痛等の風邪症状から始まり、徐々に咳が激しくなる。	発熱や激しい咳が治まっていること。	日常的に手洗いや咳エチケットを実施する。
手足口病	3～6日	発熱や、のどの痛みを伴う水疱が口腔内にでき、手足の末端やおしり等に水疱が生じる。	発熱や、口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること。	手洗いを励行する。回復後も飛沫や鼻汁から 1～2 週間、便からは数週間～数か月ウイルスが排泄されるので、おむつ交換後の手洗いを徹底する。
ヘルパンギーナ	3～6日	初期は、高熱とどの痛みの症状で、咽頭にできた赤い粘膜しんが水疱となり、間もなく潰瘍となる。高熱が数日続く。	発熱やのどの痛み、下痢がみられる場合や食べ物が食べられない場合は登園を控え、本人の状態が安定してから登園。	
伝染性紅斑（りんご病）	4～14日	発熱、倦怠感、頭痛、筋肉痛の後、両方のほほが赤くなる。発しんが出る前は感染力が強い。	合併症がなく、全身状態が良いこと。	咳エチケットや手洗いを励行する。妊婦への感染防止につとめる。
ウイルス性胃腸炎（ノロウイルス感染症、アデノウイルス感染症等）	概ね 12 時間～3日	下痢、嘔吐、吐き気、腹痛、発熱（発熱しない場合もある）。原因となる病原体は様々で、症状も少しずつ異なる。	下痢、嘔吐などの症状が完全に消失し、普段の食事がとれること。	登園再開後も、ウイルスは便中に 3 週間以上排泄されるので手洗いを徹底する。
RSウイルス感染症	4～6日	鼻水、咳、発熱、喘鳴、呼吸困難。低年齢児がうつると重症化し、入院することがある。	呼吸器症状（咳、鼻水、くしゃみ等）が消失し、全身状態が良いこと。	何度もかかる。手洗い、うがい、咳エチケットを実施する。
带状疱疹しん	不定	軽度の痛みや違和感から、多数の水疱が出て紅斑となる。	すべての発しんが痂皮（かさぶた）化すること。	ワクチン未接種児、水痘未罹患児は医師に相談。妊婦は感染予防を。
突発性発しん	9～10日	3日程度の高熱後、解熱と共に紅斑がでて、数日で消失する。	解熱し機嫌が良く全身状態がよいこと。	手洗い等を励行する。
疥癬	約 1 カ月	かゆみの強い発しん。手足には線状に隆起した皮しんもみられる。	医療機関で治療を受け、登園について指導を受ける。	手洗いの励行、下着等を毎日交換する。
伝染性軟属腫（水いぼ）	2～7週間	1～5 mm程度の丘しん、しこりで表面につやがあり、一見水疱にも見える。軽度のかゆみがある。	伝染性軟属腫を衣類、包帯、耐水性絆創膏等で覆っていること。	接触による感染予防のため患部を覆い、手洗いを励行する。
伝染性膿痂しん（とびひ）	2～10日	虫刺され湿疹等を不潔な手でかきこわした傷から発生。感染力が強い。水ぶくれ、うみ、かさぶたなど様々な状態が混在する。	ジクジクした発疹がなくなるまで。（登園時はかさぶたを被う）	完治するまでプール、水遊びは控える。普段から爪は短く切っておく。

・集団生活において流行する可能性があるその他の感染症も、医師と相談のうえ、感染のおそれなくなしてから登園してください。

★ 予防接種を受けましょう。病気の予防になります。もし、かかった場合も重症化を予防します。

★ 登園届の用紙は、園にあります。